

まいづる元気人

Vol.100

バレーボール女子日本代表
井上 愛里沙さん



DATA 井上 愛里沙

1995年舞鶴市生まれ。余内バレーボールクラブ、就実中(岡山県)、西舞鶴高、筑波大(茨城県)、久光スプリングス(以下、久光)を経て、今季からフランスリーグ「サン＝ラファエル」に所属。令和3年度皇后杯全日本バレーボール選手権大会優勝(久光)、MVP受賞。2021-22V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN優勝(久光)、最高殊勲選手賞、ベスト6、日本記録賞得点王受賞。2022年度は女子日本代表「火の鳥NIPPON」のメンバーとしてネーションズリーグ、世界選手権に出場。同大会ではゲームキャプテンも務め、多彩な攻め方を見せベスト8に貢献。

人生の選択は「自分」で 舞鶴から羽ばたく世界の火の鳥

代表でも1回トライ

― 世界選手権お疲れさまでした。今年はVリーグ優勝、最高殊勲選手賞受賞、ネーションズリーグ出場、そして世界選手権ベスト8と大活躍の年ですが振り返っていかがでしたか。

井上 まず私自身、東京オリンピックに出るという目標を持って、大学や久光といったチームを選択していました。2020年は自分のにもすごく意欲が高くて、努力もしていたし手応えもあったんですけど、その年にちょうどけがをして、コロナの関係などもあって、オリンピックは2021年に延期になりました。代表登録はされているけど参加メンバーに入れないと言われた時に、私自身やり切ったというか、ここでバレー人生が終わっても悔いはないと思っていました。ただ、久光は過去に優勝もしているチームだったのでその年に8位。もう1回このチームを立て直して優勝し、引退しようと思って昨シーズンに臨んでいました。そんな中、4月のリーグ戦の決勝ラウンド前に、日本代表の眞鍋監督から「代表に来てほしい」と言われて。その時も引退するかと考えていたので、1週間ぐらい考え、親とも相談しました。その後、



井上 その時はあまりコンディションが上がっていませんでした。国内では優勝してると、海外相手に自分がどれぐらい通用するの自信もなく、どうやって自分を表現するかを模索しながらやっています。昨年、日本の大黒柱の古賀紗理那選手がけがした

点はもちろんありますが、チームとしてブラジルにあそこまで戦えたのは収穫もあったと思います。ここをスタートラインにして来年、パリオリンピックに出場するための予選があるので、そこに向けてまた次、フランスリーグで頑張っていきたいと思っています。

フランスでも成長を

― 改めて戦いを終えてどうですか。

井上 そうですね、本当に世界選手権は長くて、とにかくコンディションを作るのが難しかったです。大会中けがをした人もいますし、いろんなことがあった中で、そういうピンチをチャンスに変え、試合を追うごとにチームとして強くなっていると思います。最後のブラジルに負けたのは、自分の勝負どころの決め方など反省

― フランスへ行くにあたり、バレー以外で楽しみにしていることは。

井上 やっぱり文化が違うので、その違いとか、新しい人とかやってみると、くのかとか、いろんな人の価値観を感じたいなと思います。あとは南国のリゾート地ですごく良い所みたいなので、そういう観光地でちょっとリフレッシュとか、また日本と違った楽しみ方があのかなと、そこは楽しみです。

新しいことを始めるのに

― 最後に舞鶴の人に向けてメッセージを。

井上 自分のバレー人生の中で大切なことは結果ではなく、過程だということですね。そのために大事なことは自分で「選択」することです。私にはありがたいことに自分で「選択」させてもらえる環境が常にあります。周りの人がこうい

― 最後に舞鶴の人に向けてメッセージを。

井上 自分のバレー人生の中で大切なことは結果ではなく、過程だということですね。そのために大事なことは自分で「選択」することです。私にはありがたいことに自分で「選択」させてもらえる環境が常にあります。周りの人がこういうからやる、では、壁にぶち当たった時、やらされている感覚になります。壁にぶち当たったことなら、自分で考えて決めたことなら、壁にぶち当たったとしても我慢ができるし、後悔のない

― 世界選手権出場に至るまでいろいろなあったんですね。ネーションズリーグで一気にブレイクしたと感じましたがいかがですか。

コートで自分をどう表現するか

